

本年私たちが過ごしておりますC年は、主にルカによる福音書から学ぶことになっております。そして今、私たちは十字架にかかるためにエルサレムに向かって主イエスと弟子達の出来事について学びを続けております。本日の福音書の箇所は何度となく今までにありましたように、理解の難しい箇所であると言ってよいでありましょう。主イエスが言われた「そこで、わたしは言うておくが、不正にまみれた富で友達を作りなさい」とはどのような意味を持っているのでしょうか。

旧約聖書の天地創造物語を思い出してみましよう。主なる神は天地を六日間かけておつくりになり、七日目に休まれたと語られています。これは地上のあらゆる存在、旧約聖書の言葉で言えば被造物がすべて主なる神の御心のままに生かされている、人間には出来ないことが数多くあるけれども、主なる神はすべてを自由になさるということを、信仰をもって現したのでした。従って「そこで、わたしは言うておくが、不正にまみれた富で友達を作りなさい」という主イエスの言葉は、この世界のすべてのものは主なる神のものであり、人間がこれは自分のものだと言い張れる存在は何一つない…、ということが表されているのです。その上で主なる神は、私たち人間に被造物をある程度まで用いることを許されたのです。

私たち人間は、植物や動物を食べながら生きています。これは単に自分が生きていくために食べているというのではなく、その命を自分達の体に取り入れて生きていくということなのです。私たちは地上の生物の命を取り入れることによって、生きていくのです。飽食の時代と言われている昨今、私たちの日頃の生活を大いに反省させられる点でありましょう。

人類の歴史の中で、最も主なる神より与えられた被造物を悪用したものが各施設および核兵器であると言われております。原子力発電所の事故や核兵器保有を正当化する国々の主張を耳にすることなどで、この問題への関心が高まっておりますけれども、主なる神は、このようなものを人間が作ることを決してお許しにはなりません。にもかかわらずこのようなものを作り、多くの人間を殺傷し、今なお世界中の人々をその危機と不安に陥れているのです。私たち人間は被造物を用いる際、御心に従って用いねばならないことを知らされます。主なる神によって造られたすべての存在を、御心に従って用いることに

よって、永遠の住まいに迎え入れてもらえるというのが本日の福音でありましょう。

さらに「友達を作りなさい」という点に注意してみましょう。これは主なる神のもとに立ち返ろうとする人をさしております。単に主なる神のものを自分のために用いて、自分の都合のよい人を集めてくるというのではありません。主なる神が被造物を私たちの自由に委ねられたのは、御心に従う用い方をすることを望まれてのことであり、それによって一人でも多くの人が主の救いに入ることを望んでおられるということでもあります。

私たちは自分の所有を持つ時、それが実は主なる神のものであり、神の国のために自分が用いるのを許されたという点を思い起こしたいと思います。「わたしは裸で母の胎を出た。裸でそこに帰ろう。主は与え、主は奪う。主の御名はほめたたえられよ」。これは困難の極地に立たされた時のヨブの言葉です。人間は実はこのような存在であり、主なる神の前にいと小さき存在であることを、今一度思い起こしながら、私たちの信仰生活を、私たちの心に生き続ける主なる神の声を聞いてみたいものであります。